

隠された宝

奨励	山下 智子〔やました・ともこ〕
奨励者紹介	同志社女子大学現代社会学部准教授

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」

(マタイによる福音書 13章44節)

心の中をのぞく

今、皆さんはどんなお気持ちですか。うれしい気持ちでしょうか。それとも悲しい気持ちでしょうか。心の中をのぞいた時に、そこにはどんな夢や希望がありますか。昨年より続く新型コロナウイルス感染症対策で、私たちは日々忍耐や工夫を強いられています。もしかすると、だんだんと心身が疲れ、孤独や虚しさばかりが募り、夢も希望も感じられないという方もおられるかもしれません。しかし、たとえそのような状況であっても、皆さんはこの同志社大学において、それぞれの将来に向け皆さん自身の力となるような出会い、経験、学びをするとても貴重な期間、大学生としての特別な時間を与えられているといえるでしょう。

ダイヤモンドの原石

学生の皆さんは、可能性の塊、輝きを内に秘めたダイヤモンドの原石のような存在です。同志社の創立者である新島襄はこんな言葉を残しました。「磨く前のダイヤモンドのようであれ。内に輝くものがあれば、荒削りの見かけは決して気にするな」(同志社編 『新島襄自伝』岩波書店 2013年 377頁)。興味深いのは、新島が「ピカピカのダイヤモンドのようであれ」とはいわなかったことです。ましてや「見た目がダイヤらしく見れば中身は問題ではない」とはいいませんでした。そうではなく「磨く前のダイヤモンドの原石のようであれ」といったのです。新島は人間の可能性を信じた方です。特に人間の内面の輝きをとても大切にされました。それゆえに新島襄は同志社大学のような若い方を育てる、それもキリスト教によって心を育てることを大切に学校をつくりました。

価値のある宝とは

聖書のマタイによる福音書13章44節に、天の国の興味深いたとえがあります。ある畑の中に価値のある宝が隠されていることを知った人は、これまで持っていた持ち物をすべて手放してでもその宝の隠された畑を買うというのです。

これは人間にとって本当に幸せな人生、価値ある生き方のたとえともいえます。例えば、新島襄は1864年満21歳で函館を密出国する前に、「武士乃思ひ立田の山紅葉にしききさればなと帰るへき(ものの心の おもひたつたの やまもみじ にしききされば などかえるべき)」(同88頁)と詠んでいます。つまり、故郷に錦を飾りたいとの思いを抱いていなかったわけはありません。しかし、新島はアメリカで様々な出会い、経験、学びをするを通して、何の躊躇もなくそのような思いを捨て去るに至りました。なぜなら何物にも代えがたい隠された宝、若者の心を育てる学校を設立する夢、いわば神が自分に与えた使命を見出したからです。新島とて、それが本当に実現するかどうか最初から分かっていたわけではありませんでした。実際のところ、新島は1890年1月23日、満47歳の誕生日直前に亡くなり、同志社大学がこんなに大きな総合大学に発展した様子や、多くの卒業生たちが素晴らしい活躍をするのを見届けることはありませんでした。しかし、新島は真に価値のある宝、学校設立の夢を見出すと苦勞をいとわず、むしろそれを喜び、その実現のために邁進することとなりました。

同志社大学に隠された宝

同志社大学という場所は、あるいはここでの出会い、経験、学びは、皆さんにとって本当に価値のある宝が隠された畑のようなものかもしれません。確かに何かと考えさせられることの多いコロナ禍の毎日ですが、こうした困難は同志社の私たちはもちろん、世界中の人々が等しく直面しているものです。だからこそ「これまで」がどうかでなく、「今日から」この状況下でどう過ごすかが大切なのではないのでしょうか。同志社大学という畑での様々な苦勞や葛藤を人生において意味のあるものとして受け止め、畑の隅々まで地中深く耕した方は、新島襄がそうだったように、きっと畑の中に隠された宝、皆さんにとって本当に価値のある夢、良い生き方といったものをしっかり見つけ、手にすることができるでしょう。

皆さん自身の中に隠された宝

あるいはこうもいえるかもしれません。同志社大学で学ばれ皆さん自身が、まだ自分でも気づいていない素晴らしい宝が隠された畑のようなものかもしれないということです。

皆さんは新島襄の言うダイヤモンドの原石のように価値ある存在です。皆さんは困難な状況の中でも工夫し忍耐しながら得た学びや、経験、出会いを通して、かけがえのない自分自身を新たに発見するのです。皆さんはありのままに価値のある存在です。皆さん自身が意識していなくても、皆さんは価値あるものとしてこの世に命与えられ、今日の日まで守り導かれてきました。何をやってもうまくいかないように感じられる日、心やからだの調子が悪い日に、自分自身をまるでつまらない石ころのように思うことはないでしょうか。でも皆さんはつまらない石ころなどではありません。そうではなくて、内に輝くものを秘めたダイヤモンドの原石なのです。

私たちはこのことをしっかりと受け止め、お互いの素晴らしさ、内なる輝きを大切に尊重しあいながら共に歩みたいと願っています。それと同時に皆さん自身がこの同志社大学で、これまでの自信のなさや、不安、心配などを捨て去り、自分の中に秘められた宝、かけがえのない自分を、ぜひさらにしっかりと見出し、いただきたいと願います。